

水はどうしてたのかな？

品川宿には、地下水をくみ上げる井戸と多摩川から引いてきた上水（水道）をくみ上げる井戸がありました。多摩川から品川まで、木や石でできた水道管「木樋」と「石樋」ではこんできました。また、当時は石けんも洗剤もなく、排泄物は野菜を育てる肥料になったため下水に流しませんでした。現代に比べ、下水はとてもきれいでした。水を大切に使っていたんですね。

おはなちゃん



どんな人たちがくらしていたのかな？

品川宿は、たくさんの人たちが行き来していたので、商売をするお店がたくさん建っていました。また、石工や大工、仏像をつくる仏師や髪結（床屋）など、くらしにかかせない職人さんがたくさん住んでいました。

さだえもん



どんな人たちが通ったの？

江戸に住む将軍、大名などのお武家さん、京都に住むお公家さんのほか、いまの郵便屋さんにあたる飛脚、物をはこぶ人や馬、旅行にでかける人などたくさんの人でにぎわいました。また、長崎出島のオランダ人や、朝鮮や琉球（沖縄）の使節も品川宿を通して江戸に行きました。

品川区立品川歴史館
〒140-0014 東京都品川区大井6-11-1
電話 03-3777-4060
FAX 03-3778-2615

品川歴史館

検索



どうかい どう しな がわ じゅく 東海道品川宿に

いってみよう！



どーいんくん
(中世品川の実業家)



いえみつどの
(江戸幕府三代将軍)



おしのちゃん
(品川宿のアイドル)
※架空の人物です



たくあんさん
(東海寺を開いたお坊さん)

品川歴史館の展示を案内してくれるキャラクターだよ！展示室に会いに行ってみよう！



おふじとまつきち
(品川宿に住む旅好き夫婦)
※架空の人物です

品川宿と品川歴史館の展示

東海道品川宿は、慶長6年（1601）1月、徳川家康によってととのえられました。宿場には、大名や公家などが泊まる本陣や脇本陣、荷物を運ぶ人と馬を出す問屋場、荷物の重さをはかる貫目改所、宿泊する旅籠屋や一休みできるお茶屋などがあり、多くの人びとでにぎわいました。

品川歴史館の展示室には、品川宿のコーナーがあります。このパンフレットを片手に展示室にいってみましょう！

★スクリーンの映像をみて江戸時代にタイムスリップ！



★品川寺の六地藏

江戸の六ヶ所の出入口に、銅でつくった大きなお地藏さんを置きました。

★海晏寺

江戸時代は紅葉の名所でした。

★鈴ヶ森の刑場

悪いことをした人たちを罰したところです。

★立会川

★海岸線の石垣

伊豆半島や千葉の「のこぎり山」でとれた石を使っていました。いまも一部のこっています。

★海苔ひび

このあたりの海岸では、海苔を育てて売っていました。また、新鮮な魚といっしょに、将軍の住む江戸城にもおさめました。

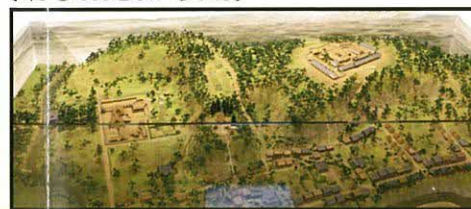
★妙国寺の五重塔

室町時代に鈴木道胤がたて、将軍家光がたて直した五重塔がありました。今の天妙国寺です。



★御殿山と東海寺

3代将軍家光と沢庵和尚の時代を復元した模型です。御殿山には、その後8代将軍吉宗が桜を植え、多くの人がとでにぎわいました。



★品川宿の町並み

目黒川を挟んで南北 500 メートルを模型にしました。よ〜くみてみましょう！



★土蔵相模（相模屋）

北品川にあった大きな旅籠屋です。土蔵のような「なまこ壁」をしていたので、土蔵相模と呼ばれました。



★御台場の石垣石

品川歴史館の玄関わきには、江戸時代の終わりの品川宿の近くにつくられた御殿山下台場の石垣石があります。

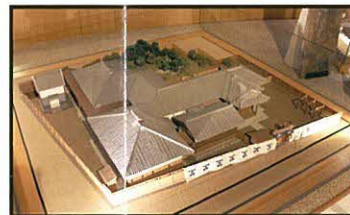


★目黒川と南北境橋

目黒川は、かつて品川と呼ばれていました。北品川と南品川の境です。

★品川宿の本陣

品川宿で一番大きくて重要な宿泊施設。江戸城の将軍に会いにくる全国の大名や京都の公家が泊まったところです。



★潮干狩り

★くじらもやってきた！

寛政10年(1798)、品川沖に一頭のくじらが迷い込み、ここで亡くなりました。品川宿の人たちは鯨塚とよぶお墓をたてました。